
俺に触れるなら

N・Izumi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺に触れるなら

【Nコード】

N4214Q

【作者名】

N・Izumi

【あらすじ】

「俺に触れたいのなら、手袋を取れ」　コナンに触れるために怪盗キッドは…？
ボーズラブのため、R15とさせていただきます。

（前書き）

B1です。苦手な方はご閲覧なさらず、お戻り下さい。

「俺に触れたいのなら、その手袋を取れ」

彼は、私の手袋を指差しながらそう言った。

「嫌ですか？」

「あつたりめえだろ！」

さぞかし今の私の顔は間抜けだろう。

“月下の奇術師”や“平成のアルセーヌ・ルパン”と呼ばれているこの私が、こんな間抜け面。

自分でも笑ってしまう。

「んだよ、その面……！」
ほら、笑われた。

「わかりました。名探偵の頼みなら、この怪盗キッド 手袋を取ってあげましょう」

「はあ？」

イマイチ話が噛み合わないが、私はそんなの気にするほどの人間ではない。

と言っている間に、手袋を取ってみせた。

「取りましたよ?」

「……」

「では、遠慮なく触らせて……」

「……バー口……」

彼の首筋に唇を寄せて、音を立てて吸う。

「んっ……」

「感じてるのですか?」

「んなワケあるか……ッ!」

お次は甘噛み。

首筋に甘噛みをした途端、彼は顔を歪めた。

「吸血鬼みたいなことしてんじゃねえよ」

「吸血鬼って……私は怪盗ですよ」

「こそ泥だろ……あ……」

「名探偵って、感度いいですね」

シャツの中に手を滑り込ませて、彼の肌を撫でる……と思いきや、満

面の笑みで…

「これ以上はさせねえよ？」

ゲシッ

「うっ！」

彼の右足が、私の腹にクリティカルヒットした。

勢い良く、崩れ落ちる私の身体。
それを冷めた目で見る名探偵。

なんとも複雑な光景…

「これ以上したら…どうなるかぐらいわかるだろ」

「……」

「なあ、怪盗キッドさん？」

彼は、満面の笑みでそう吐き捨て 屋上を後にした。

私と言えば、相変わらず冷たいコンクリートに倒れていた。

e
n
d

（後書き）

意味不明ですみません…！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4214q/>

俺に触れるなら

2011年1月28日04時32分発行